

地域にはばたく市民パワー！



ところざわ倶楽部「広場」

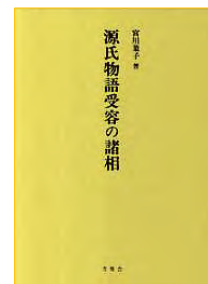
所沢市民大学修了者の会 広報紙

2023年9月号(第173号)

発行責任者 中原 幹男



講師：宮川 葉子 元淑徳大学教授



日本の古典文学者
宮川葉子氏の著作です。
この書籍は、2011年に青
簡舎から出版されました。



ところざわ倶楽部 第17期定期総会のご案内

日時	2023年11月22日(水曜日)		
	受付開始	13時15分	13時30分～16時30分
場所	所沢市民文化センター ミューズ 2階 展示室(ザ・スクエア)		
時間	第1部	13時30分～	17期定期総会開会
	第2部	15時～	落語 水々亭めだか さん 懇親会
	閉会	16時	

文芸講座「源氏物語」を受講して



◆ 田沼 幹子（野老澤の歴史を楽しむ会）

古典は現代にも通じる普遍的なものであるからとても興味深い。

この度、宮川先生の講座を初めて拝聴しました。古文を解説される際は、まさに紫式部がそこにいるような臨場感があり、気持ちの機微が伝わりました。特に最後に本日登場した人に幸せな人は一人もいなかったというお言葉が印象的でした。

思えば平成 10 年 4 月講談社創業 90 周年記念企画で瀬戸内寂聴訳の源氏物語が出版され、その記念講演で瀬戸内寂聴さんも締めとして、宮川先生と同じく登場人物の殆どが不幸な結末を迎えていると言われた事がよみがえってきました。

私にとりずっと苦手だった源氏物語は古希を過ぎた今、世の中を達観してみている自分がいて、演劇や歌舞伎をみるような楽しむ姿勢に変わってきている。

次回の NHK 大河ドラマではどのように描かれるのか楽しみである。

◆ 山田 忠男（一般 3, 14, 21, 27 期生）・・・ 源氏物語ゆかりの京の風景

講演を聴きながら、源氏物語にゆかりのある人物や町が浮かびました。ゆかりの地は四十数カ所にも及びますので、紙幅の関係で観光客の知られざる数カ所に絞って綴ります。

紫式部が育ち源氏物語を執筆した邸宅跡にある**廬山寺**（御所の東側）、源氏庭があり桔梗の花で有名です。光源氏の実存モデルとされる源融の別邸にある**清凉寺**、嵯峨野にあります。源融は嵯峨天皇皇子で左大臣まで上り詰め、歌人（百人一首）でもあります。清凉寺より西方向に**野宮神社**があり、光源氏に恋慕し光源氏の愛人に嫉妬する六条御息所がこもった所です。J R 京都駅近くにある**涉成園**。源融が四町四方の広大な屋敷（六条河原院）を造営しましたが、その一角に涉成園が平安時代の雰囲気漂わせた建物、池となっています。源氏物語では、河原院をモデルに六条院と名付け、四季を象徴する屋敷があり、春＝紫の上と女三宮、夏＝花散里、秋＝秋好中宮、冬＝明石君を住ませたと描写されています。

来年の NHK 大河ドラマ「光る君へ」（源氏）には上記以外に様々の地が紹介されるでしょう。源氏物語を片手に京の町を散策されてはいかがでしょうか。

◆ 森井 茂吉（アジア研究会）

平安時代中期、今から 1000 年と少し前、天皇、貴族、公爵で政治が行われていた時代に、世界に類なき紫式部（貴族藤原為時の娘）という作家が表した物語。

自分の推定ですが、紫式部さんも光源氏に愛されたいと思っていた人ではないかと思います。光源氏は眉目秀麗、当世上級社会の女性心を驚掴み出来る絵にも画けない美男子だったのだろう。光源氏はもちろん正妻（紫の上）を持ち、一子を設けているが、名前が上がっているだけで 12 名と関わりを持った人で、一部では数えきれないほどの話もあります。継母を孕ませたり、幼き女を成人になるまで面倒見たりと、女性に対するおおらかさ、優しさを持ち合わせた人ではなかつたらうか。

この時代、菅原道真、安倍晴明など色々な人達が名を連ねています。紫式部さんは良い小説を残したなと思います。その時代を想像しただけで楽しく、羨ましい限りです。

宮川先生の明るい講義を拝聴させて頂き、感謝申し上げます。



第 3 回 ところざわ倶楽部まつり 開催内容

「第3回ところざわ倶楽部まつり」について、その内容が以下の通り固まりました。今年度は、漸くこれまでのコロナによる活動の制約から解放され、「輝くシニア大集合」のテーマの下で、皆様と共に盛大に開催したいと考えております。年に一度の活動の集大成として積極的な参加を期待しております。

2023年 9月 27日 (水曜日)

所沢市中央公民館ホール&ホワイエ

《 開催内容 》

【舞台部門】 12:00～16:30

- *ビッグフェロージャズオーケストラ・ピックアップメンバー (特別出演) /
スタンダードジャズの生演奏
- *食を通して所沢を知る会/映像及び寸劇「日本の食糧危機」食べられない日がある
- *所沢の自然と農業/ 第1部「3 グループの紹介」
第2部「みんな一緒に〜ヤングマンだ〜」
- *ドラマティック・カンパニー/シェイクスピア朗読劇「ヴェニスの商人」
- *民話の会/オリジナル民話「ほうおうとえび」、「車反しの弥陀」の語り
- *スマイルパイレーツ/「笑顔で楽しくチアダンス」
- *懐かしの映画・鑑賞会/「まつりを楽しもう！」

【展示部門】 11:00～16:30

- *13 サークルの活動紹介
- *個人作品/絵画、書、写真、陶芸、生け花、刺繍、絵手紙 他

【後援】 所沢市社会福祉協議会/NPO 法人 フードバンクネット西埼玉

なお、特別出演では地元所沢でジャズの普及活動に力を注がれているビッグフェロージャズオーケストラの中の6名(リーダー藤本忍氏)の方々によりますスタンダードジャズナンバーを中心としたジャズの生演奏をご堪能下さい。



世界農業遺産に認定

所沢の自然と農業サークル 川田 良太郎

武蔵野の落ち葉堆肥農法が国連食糧農業機関（FAO）により世界農業遺産に認定されました。

関係者の皆さんおめでとうございます。

三富新田は振り返ってみれば、元禄7年（1694年）に川越藩主となった松平美濃守吉保（柳沢出羽守保明）により三富新田（「富」の由来は、吉保が三富新田の名を論語子路編より「豊かな村になるように」との古代中国の孔子の教えに基づき三富と名付けた）の開発が開始され、川越藩の家老らにより1戸分を約5町歩(5ha)の短冊型で、間口40間・奥行375間とし、幅6間の道路に面した表口を屋敷（約0.5ha）に、その後ろに耕地（約2.5ha）、さらに後ろに山林・雑木林（約2ha）を配置する地割計画がたてられました。この地割は現在もその姿をとどめています。

この地域一帯の土壌は軽土・薄地等と記される劣悪で、糠や下肥などの金肥を多用し、やせた土地を肥沃にするための努力がはらわれてきました。また、水の大変不便な土地であったため、川越藩で11か所に井戸を掘り、村人に共同使用させていました。この新田では大麦・小麦・粟・稗・大根を栽培していたようですが、基本的に雑穀・野菜が主でした。

今ではこの地の代表的な作物であるさつま芋ですが、所沢市域での栽培が始まったのは南永井村の名主を勤めた吉田家の残されている「覚書」によれば寛延4年(1751年)上総国志井津村より種を買って栽培を開始し、近隣に広めました。その後さつま芋は武蔵野新田の主要作物として成長し、川越街道や新河岸舟運によって江戸へ運ばれ、集散地である川越の名をとって「川越芋」と呼ばれるようになりました。



さつま芋畑 遠望に雑木林



左から1, 2, 3年目の堆肥

武蔵野の落ち葉堆肥農法とは、この火山灰土の厚く覆われた武蔵野の痩せた土地に江戸時代から雑木林を育て、その落ち葉を集め2～3年掛けて堆肥化し畑にすきこむ方法で、今迄延々（約300年）と土壌改良を重ね、安定的な生産を実現し、その結果、景観や生物多様性を育むようになりました。その成果として日本農業遺産の認定地域に認定され、さらに今回の世界農業遺産にも認定されました。

世界農業遺産認定までの経緯

- 2014年度三芳町が世界農業遺産候補を申請するが落選、
- 2016年度県西部地域（川越市、所沢市、ふじみ野市 三芳町、埼玉県川越農林振興センター、いるま野農業協同組合）で構成した武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会を結成し再申請したが落選。この年農水省が新設した日本農業遺産に認定された。
- 2018年度も申請したが落選。
- 2020年度に農水省の「世界農業遺産等専門家会議」の書類審査を通過。
- 2021年10月に農水省がFAO申請書を提出。
- 2023年6月現地調査を経て、7月に認定。

※世界農業遺産（GIAHS）とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域（農林水産業システム）であり、国際連合食糧農業機関（FAO）により認定されます。世界で24ヶ国74地域、日本では13地域が認定されています（令和5年2月現在）。

※日本農業遺産：世界農業遺産を模した日本版で、22地域が認定されています（令和4年1月現在）。

「世界の平和を考える」シリーズ 第20回

平和の在り方

稲村 洋二



「広場」に連載されている「世界の平和を考える」シリーズは20回を数え、各個人の意見の発表の場として活用されています。個人の意見は尊重することを前提に、述べられている意見に対する評価はいろいろあって当然だと思いますし、反対意見を持つことも当然だと思います。

そういう点からこの連載が議論の場となることを期待しています。

最近の記事の中に「防衛3文書」についての意見が2人の女性の方から投稿されました。これについて私の意見を述べたいと思います。

まずお二方は“「防衛3文書」は国会を通さず閣議決定され、日本は米国が仕掛けた戦争に巻き込まれようとしています。日本を戦争する国へと導いています”と述べられています。しかし、“防衛3文書”の閣議決定は現内閣の方針を決めたものであって、これにより他国や国際社会が日本の防衛の意図や能力を理解し安定した国際関係を築く上で重要な役割を果たしています。実行段階までに持つていくには国会での法案、予算の成立が必要です。そこには当然のことながら国会の審議が必要となって来ます。

日本が長くその防衛計画の大綱としてきたものは昭和51年、三木内閣で決めた「基盤的防衛力構想」です。これは敵を全く想定しないで外部の安全保障環境と直接関係なく一定の防衛力が必要だという発想からきたものです。

根本的なところに立ちかえり、現実を直視した上で必要な防衛力を考えるプロセスが抜けていたと前防衛事務次官嶋田和久氏は語っています。その結果、例としてよく取り上げられる一つの事象が“弾薬切れ”です。

自衛隊には継戦能力が1か月程度しかないという現実です。基盤的防衛力構想は憲法第9条前文の“平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼してわれらの安全と生存を保持しようと決意した”をベースとした構想です。

しかし、今の世界を取り巻く状況はどうでしょうか？第2次世界大戦後の世界の平和維持の仕組みがいつも簡単に壊され、ロシアのウクライナ侵攻が始まりました。そこには国際法を無視、主権の無視、人権の無視、人命の無視、国連の常任理事国の責任無視。なんともし力による蛮行以外に何も侵攻を正当化するものはないと思うのですが、今回

講演演者として招いている孫崎さんの紹介記事の中には“NATOが東進するからだ”とロシアを擁護するような文言が入ったり、日本はウクライナに対し何もしていないというようなアジテーシ

ョンに似た文章が入っています。日本が信じる諸国民がいる国は周りには少ないのです。

ウクライナの戦争は続いています。ウクライナは敗北すればウクライナ国家がなくなり、ウクライナ人のアイデンティティがなくなります。ウクライナにとっての達成すべき平和とは、勝利した上できちんと安全が保障され、ロシアの戦争犯罪が裁かれ、賠償金が得られる「正義の平和」です。ウクライナ人にとっては“やらなければならない戦争”です。

“防衛3文書”は戦争を起こすために作られたものではありません。戦争を起こさないために作成されたものです。

また、防衛費に費やされる巨額な費用を教育・福祉に費やすべきだとの意見も同時に「広場」で述べられています。

私はこの意見に反対するわけではありませんが、戦争が起こってしまえばそのような費用とは比較にならない膨大な費用が必要です。

私は“防衛3文書”には賛成します。周りの覇権主義を唱える侵略の意図をもった国に侵略を思いとどまらせる力を持つべきです。戦う覚悟と装備を持ち、さらにそれを相手に伝えなければ侵略を招きます。また軍勢力という背景を持たない外交は脆弱です。ソ連に日ソ中立条約を一方的に破棄され国土を奪われた日本を我々は知っているはずです。

但し、太平洋戦争は日本も「自衛のための戦争」と言って他国を侵略しました。このようなことは二度と起こさないためにもこれからの審議に関心をもって見ていくべきだと思います。

サークル活動報告

「温暖化を止めよう」

地球環境に学ぶサークル

中島 峯生

国連のアントニオ・グテーレス事務総長は 7 月 27 日、ニューヨークの国連本部で記者会見を開き、「**地球温暖化は終わり地球沸騰化の時代が到来した**」と発言。各国政府などに、今すぐに気候変動対策を加速させるよう訴えました。

今年の猛暑は各国でも大きな災害（山火事、干ばつ、台風など）を引き起こしていて、温暖化の影響であることは周知の事実となっています。

サークルではこれら温暖化の情報を中心に定例会で討論し、広報紙「広場」の環境問題シリーズとして継続掲載してきました。

最近のサークル活動 3 件を報告します。

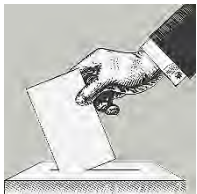
- 1) 悪者扱いしていたプラスチックは分別を正しくして回収することにより再利用、再加工が出来ることを再認識しました。(環境シリーズ第 31 章 広場 7 月号掲載)
- 2) 6 月 27 日所沢市北岩岡のソーラーシェアリング事業を見学した。これは西武アグリ (株) が

観光農園として 2025 年オープンを計画しています。農園には木はまだ小さいが、ブルーベリーとブドウが多種育てられていました。

- 3) 7 月 25 日自然と農業と食トコと合同で、農林水産省関東農政局出前講座「みどりの食料システム戦略」を聴講しました。農林水産業でも温室効果ガスの排出を減らす取組みをしていることを知りました。



2) のソーラーシェアリング見学会



「新旧交代の市議会選挙結果」

傍聴席 石堂 智士

傍聴席には、昨年と 2 年前の「地方自治」を卒業した方が次々と加入され、昨年末から今年 4 月にかけて、新たな加入者で定例会参加者の半分以上を超える新鮮な活動となりました。新たな加入者たちは、明確な意見を表明できるなかなか前途有望な方々です。そこで、自分のやりたいテーマをもってグループ活動をする小集団の 3G 活動がより活発になるだろうと思っていました。しかしながら、そうなる前に今年の市議選が話題になり、急きょ、3 月定例会で、市議選アンケートを実施することに決まりました。

アンケートの質問項目は、多様性のある項目を 9 点選び、賛成反対の 5 段階評価とし、残り 1 点は立候補者が最重点項目を選ぶかたちで 10 点にまとめました。アンケートの対応は、スマホ利用

の数字応答による回答にしたところ、すぐに立候補者から回答が寄せられ、前回は大幅を超える回答数を得ました。アンケート結果について、すでに退会された方からも、感謝のメールが届きました。

しかし、私は市議選の結果を見て、本当に驚きました。当選者 33 名のうち、新人 10 名（元職を含む）と実に 3 分の 1 が交代したのです。過去の結果は、2019 年は新人 4 名（同）、2015 年は新人 3 名（同）でした。2009 年「議会基本条例」施行、2011 年「自治基本条例」施行から、10 数年が経過しました。所沢が、議会基本条例の全国模範となった時代が変わりつつあるように思えます。東京の郊外都市として、成熟した住宅地と発展した所沢市は、これからどこに向かうのでしょうか？

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

1. アジア研究会 (玉上 佳彦 090-2497-1076)

9月20日(水)13:30～16:00 中央公民館6号室 定例会
高田会員による仏教の話 第1弾
「仏教の根本を散策する」
10月18日(水)13:30～16:00 中央公民館8・9号室(予定)
テーマ：未定

2. 楽悠クラブ (田村 健一郎 2949-3434)

9月12日(火)13:15～16:30 中央公民館3階8・9学習室
モーツァルト歌劇「フィガロの結婚」
10月17日(火)13:15～16:30 中央公民館3階8・9学習室
ワーグナー楽劇「ニーベルングの指輪(除夜) ラインの黄金」

3. 食を通して所沢を知る会 (岡部 まさ子 080-5872-1868)

9月19日(火)10:00～ ふらっと
ところざわ倶楽部まつり出演の為の練習
9月26日(火)14:00～ 中央公民館
ところざわ倶楽部まつり リハーサル
9月27日(水)12:00～ 中央公民館
ところざわ倶楽部まつり

4. 地球環境に学ぶ (小田原 一博 080-6537-2670)

9月22日(金)10:00～12:00 新所沢東公民館 読書会
① FoE Japan 編「福島のとエネルギーの未来2023」第3回
② 泉房徳著「社会の変わり方」第1回
9月26日(火)9:00～12:00 新所沢東公民館 月例会
環境討論、持寄り報告、ところざわ倶楽部まつり準備

5. 所沢シニア世代地域デビュー支援の会 (田口 元也 090-9820-5668)

9月13日(水)13:15～15:00 中央公民館 1階 学習室3号
サロン「ひよこ塾」(定例会) テーマ「100歳時代をどう生きる」
《SP スマイルパイレーツ練習日》どなたでも見学大歓迎！
9月9日(土)13:30～16:00 中央公民館 3階 学習室8・9号
9月23日(土)13:30～16:00 生涯学習センター多目的室 (予定)
9月27日(水) ところざわ倶楽部まつり参加 中央公民館

6. 所沢の自然と農業 (稲村 洋二 090-5530-4703)

9月7日(木)13:00～17:00 新所沢公民館和室 祭りの練習
9月14日(木)13:00～15:00 新所沢公民館1号室 定例会
15:00～17:00 和室 祭りの練習
9月19日(火)9:30～11:30 柳瀬荘黄林閣ボランティア
9月21日(木)13:00～17:00 新所沢公民館 祭りの練習
9月29日(金)9:30～11:30 柳瀬荘黄林閣ボランティア

7. 野老澤の歴史をたのしむ会 (栗屋 貴夫 090-2746-9840)

9月21日(木)8:50～16:00
「羽村～多摩湖・歴史ウォーク (前半)」今回は箱根ヶ崎まで
8:50「西武線所沢駅」新宿方面行きホーム最前部集合
「羽村取水堰→多摩湖水道ルート」を辿るウォーク
9月28日(木)13:00～15:00 中央公民館学習室1・2号
歴史講座「谷戸のある生活」講師：門内政弘先生

8. ドラマティック・カンパニー (高橋 信行 090-9393-6238)

9月9日(土)10:00～12:00 中央公民館3号
「ヴェニスの商人」練習
9月15日(金)14:00～15:00 中央公民館ホール
舞台リハーサル

9. 懐かしの映画・鑑賞会 (二上 拓夫 080-1250-6151)

9月12日(火)10:00～12:30 西新井町会館
邦画「幸福の黄色いハンカチ」'77年高倉・倍賞・武田・桃井
9月26日(火)10:00～12:30 西新井町会館
洋画「私を野球につれてって」('49年)ジン・ケリー、シナトラ
アメリカMLB野球場 7回に必ず唄われる
《 8月29日[火] 映画を学ぶ！勉強会 10:00～11:45 》

10. 脳活サークル (加曾利 厚雄 2939-2308)

9月25日(月) 今月は休会
27日(水)「ところざわ倶楽部まつり」、展示部門「フラワーアレンジメント」で参加のため、定例会は休会とします。
10月23日(月)13:30～ 会場は調整中 定例会
内容：認知症サポーター講座と介護保険改正点等、泉志津子氏

11. 傍聴席 (石堂 智士 2947-0835)

9月20日(水) 新所沢東公民館 研修室1号
「藤本市長3期12年の総括」学習会、資料当日配付
ほかに各グループ報告
10月16日(月) 10月テーマは9月例会で検討

12. 民話の会 (仲山 富夫 090-3902-0283)

9月22日(金)10:00～13:00 こどもと福祉の未来館
多目的室2号(1階) 定例会
“第3回ところざわ倶楽部まつり”参加演目の読み合わせを中心に行います。「ほうおうとえび」「車返しの弥陀」の二編。
9月26日(火)15:20～ 中央公民館 “まつり”リハーサル、
9月27日(水) “まつり”本番！ 皆で、楽しみましょう”

13. ITサロン(ところざわ倶楽部) (玉上 佳彦 090-2497-1076)

9月15日(金)13:00～16:00 新所沢公民館 学習室5号
パソコン相談会
9月25日(月)13:00～16:00 新所沢公民館 学習室5号
パソコン相談会

理事会報告

9月11日(月)10:00～12:00 第9回理事会 新所沢東公民館
主な議題
① ところざわ倶楽部まつりの準備・実施要領の確認
② 11月22日 ミューズにおける第17期定期総会について
＊各サークルにおかれては、会員名簿の調整及び総会資料に掲載する「第16期活動報告」を、9月末日目で作成願います。

みんなの広場
第 50 回

アジア研究会
川田 良太郎

「所沢の緑の保全」



埼玉森林サポータークラブは、埼玉県内約 20 カ所（北は神川町、西は秩父、東は岩槻・鴻巣、南は入間・所沢）の森林・平地林の整備活動を土日祭日に行っています。その内の所沢地区の「緑の森博物館」をご紹介します。緑の森博物館は、狭山丘陵の北西部に位置し、入間市宮寺地区と所沢市糍谷・堀之内地区にまたがる約 85 ha の広さがあり、県の緑自然課が管理（県有地です）しています。その広い地域を 3 分割し、西からできるだけ人の手を加えずに自然のままに林や湿地を保全するエリア、人が適度に手を加え昔ながらの雑木林の景観を保つエリアと自然とふれあいながらふるさとの景観を学ぶエリアに分かれていて、我々サポータークラブは、中央に位置するエリアで活動しています。

まず、伐採業者が皆伐した地区に入り、植栽の段取りとして地拵え・地均し・植栽地の下草刈り（冬）、圃場でドングリから育てたクヌギ・コナラの苗や館内の実生の苗木を植栽します（春）。5～6 年間周りの下草に負けないように、下草刈り（夏）、下草に負けないように成長したら、間伐をして成長を見守ります。また業者が伐採した 20 年～30 年生のクヌギ・コナラには、ヒコバエが生え始めます（萌芽更新）ので、モヤカキをして数本残し 2、3 年かけて 2 本に整理し成長を見守ります。毎年冬に落ち葉かきをして、堆肥を作り、田畑の肥料とします。

今迄の活動 18 年間を振り返ると、毎年植栽した約 800 本が見事に成長し、雑木林を形成している様子を見るとヤツタカイを感じている今日この頃です。

編集後記

6 月頃から猛暑が続き、そのまま真夏になり毎日が暑い暑い合言葉。そんな時ふと農作物が心配になってきました。そこで霊長類学者の山極寿一の著書の「ゴリラからの警告」の本を思い出しました。群れで暮らすサル達は食べる時は分散して、仲間と顔を合わせないようにしているそうです。しかし、人間は仲良く向かい合って一緒に食べようとする。このようにサルと人間との違いは、サルは食べる種類や場所が限られているので、鉢合わせになると喧嘩になるそうです。

しかし、日本のような社会では、まだ食べるものが豊かで、食事会等暢気にしていますが、そのうちに気象変動や、現に起こっている戦争、複雑な世界情勢によって農作物が容易に入手できなくなると、人間もそのうちサルのように脊を向けて、個（孤）食になるかもしれません。いや現になりつつあるのではないのでしょうか。人間は共に食事することにより信頼が生まれ、文化も発達するそうです。しかし現在は異常気象、地球環境破壊、政治不信など不安ばかりです。そんな中で、この「広場」が少しでもホッとできて皆さんとの繋がりになることを願っています。

園田：記

川柳「八十七」

課題「多い」

作品発表 選 中島峯生

「自由題」

責任者内容よりもまずは数
あれ多いお菓子取り合い懐かしい
財布なか診察券の多いこと
俺もまだ男なのかな気が多い
キーキ切りわずかに多いこれボクの
へそくりの多さを期待渡し舟

詔 笛
海さとの
突拍子
縄文人
りんご好き
峯 声

人の為で自分が元付け
梅雨明けは仕上げられてる梅の里
駅降りて人っ子見ないオラの町
マイナンバーしくみも出来ぬ縦割り
癒される孫の笑顔が世界一
夏なのにこもる生活美白肌

詔 笛
峯 声
突拍子
縄文人
海さとの
りんご好き

次回（第 88 回）課題「泣く」そして「自由題」
締切り日：9 月 20 日、担当中島まで、どなたでも
宛先 mh-naka@jcom.home.ne.jp

Fax 04-2928-1161